



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂
7丁目5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 尾上浩一
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
http://www.nippon-pta.or.jp/

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を...

主な内容

- 1面 記念式典
2面 記念式典、優良PTA紹介、きざし
3面 全国研究大会、みえ大会、県P自慢
4面 分科会(1~6)、全体会
5面 分科会(7~9、特1・2)、全体会
6面 ブロック大会
7面 心のきずな61キャンペーン、広報紙コンクール、学校の窓から
8面 少年の主張全国大会、PTA会長日記

日本PTA創立65周年記念式典開催

秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと

家庭・学校・地域の懸け橋となつて

11月19日(火)日本PTA創立65周年記念式典が、東京・紀尾井町のホテルニューオータニにおいて、秋篠宮同妃両殿下をお迎えして開催された。



秋篠宮同妃両殿下

式辞

公益社団法人日本PTA全国協議会

会長 尾上浩一



また、参議院議長、文部科学大臣をはじめとするご来賓の皆様方にご臨席を賜り、主催者として誠に名譽なことであり、謹んで御礼申し上げます。

秋篠宮殿下のお言葉

本日、日本PTA創立六十五周年記念式典が開催され、全国から参加された皆様と共に祝うことができますことを、誠に喜ばしく思います。

PTAは、終戦から間もない昭和二十三年、全国各地の小学校・中学校において、児童・生徒たちの健やかな成長を願って、保護者と教員が協力する組織として誕生いたしました。

祝辞

衆議院議長

伊吹文明

秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、日本PTA創立65周年記念式典が開催されるにあたり、一言お祝い申し上げます。

祝辞

参議院議長

山崎正昭



本日に、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、日本PTA全国協議会創立65周年記念式典がこのような盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

この教育再生のために、学校のみなさん、家庭、そして地域の方々、それぞれの役割と責任を自覚し、互いに協力しながら社会総がかりで取り組むことが重要です。

本紙は各校PTAに、「校長・教頭用」、「PTA会長・役員用」、「広報委員会用」、「事務局員用」を目安に配布しています。

近年、価値観の多様化や情報通信技術の発展に加え、グローバル化の進展を背景に、子供たちを取り巻く環境は日々大きく変化しております。

子供たちの健やかな成長には、家庭・学校・地域の連携が欠かせません。その意味におきましても、三者の架け橋としての役割を担っていただける皆様の活動に、今後とも大きな期待が寄せられております。

教育は国家百年の計であり、国家社会発展の基礎として、大局的な見地から、その充実に取り組んでいかなければなりません。参議院といたしまして、任期6年という特徴を生かすつつ、長期的・総合的な観点から審議や調査活動を進め、教育現場の実情を的確に把握して、子供たちがより良い教育を受けられるよう、引き続き主力を尽くしてまいります。



# 第61回日本PTA全国研究大会みえ大会



## みえに集えばきつと見える…三重からの「わ」

### ～始まりの地で、語り育もう 子どもたちの未来～

8月23日(金)、24日(土)の2日間に渡り、第61回日本PTA全国研究大会が開催された。「輪」話「型」の3つの「わ」をテーマに、11分科会と全体会が行なわれ、全国から集まった約8000人のPTA会員によって、未来ある子どもたちのために何をすべきか、熱心な研究討議がなされた。

### 会長あいさつ



尾上浩一 会長

「わ」をテーマに、全国各地より向心の高い多くのPTAの皆さんが参加されたこと、衷心より感謝申し上げます。

「公務お忙しの中、文部科学大臣、下村博文様、三重県副知事、石垣英二様、伊勢市長、鈴木健一様をはじめとする来賓の皆様方にご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

あわせて、日本PTAという組織の存在意義を明確にし、支え、見守ってこられた、歴代会長をはじめとする多くの先輩、関係諸氏に敬意と感謝を申し上げます。

みえ大会では、3つの「わ」をテーマに、子どもを中心に人々、人と地域が如何につながり、その中でPTAの果たす役割がこれほど大切かを改めて実感していただける機会をもちました。期待し、開催させていただきます。

第61回日本PTA全国研究大会みえ大会、全国大会ははじまりの地でもある。この「三重」において開催できる新たな歓びと、全国各地より向心の高い多くのPTAの皆さんが参加されたこと、衷心より感謝申し上げます。

「公務お忙しの中、文部科学大臣、下村博文様、三重県副知事、石垣英二様、伊勢市長、鈴木健一様をはじめとする来賓の皆様方にご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

あわせて、日本PTAという組織の存在意義を明確にし、支え、見守ってこられた、歴代会長をはじめとする多くの先輩、関係諸氏に敬意と感謝を申し上げます。

みえ大会では、3つの「わ」をテーマに、子どもを中心に人々、人と地域が如何につながり、その中でPTAの果たす役割がこれほど大切かを改めて実感していただける機会をもちました。期待し、開催させていただきます。

## 祝 辞

文部科学大臣  
下村 博文



本日、第61回日本PTA全国研究大会が、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本日、第61回日本PTA全国研究大会が、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

「みえに集えばきつと見える」といふように、子どもたちを取り巻く環境が日々変化し、安全を脅かす事象が年々増加している。子どもたちが安心して育ち、将来に希望と自信の持てる教育環境をつくりあげていくためには、親、師、友、地域、学校、家庭、PTAの協働による安心な環境づくり、脅威から子どもを守る役割を果たしていく責任があります。

次に、学校においては、PTA活動を通じて学校関係者との協働し、相互に理解改善に努め、互いに理解し、信頼関係を作り上げ、また、私たちが抱える学業不振は子どもにとって頼もしい「天の恵み」として映り、いい教育環境づくりにも影響を及ぼします。

PTAの存在する意義は明確であり、PTA活動の主体は私たち保護者です。子どもたちのために、大前提として活動していただくが、実保護者が、人とつながり、地域とのつながり、社会を知り自分をつなげ、社会を築くことができる場でもあります。社会教育を体感し、その活動のすべてが子どもたちへ、地域へとつながっているのです。

本日、第61回日本PTA全国研究大会が、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

「みえに集えばきつと見える」といふように、子どもたちを取り巻く環境が日々変化し、安全を脅かす事象が年々増加している。子どもたちが安心して育ち、将来に希望と自信の持てる教育環境をつくりあげていくためには、親、師、友、地域、学校、家庭、PTAの協働による安心な環境づくり、脅威から子どもを守る役割を果たしていく責任があります。

次に、学校においては、PTA活動を通じて学校関係者との協働し、相互に理解改善に努め、互いに理解し、信頼関係を作り上げ、また、私たちが抱える学業不振は子どもにとって頼もしい「天の恵み」として映り、いい教育環境づくりにも影響を及ぼします。

PTAの存在する意義は明確であり、PTA活動の主体は私たち保護者です。子どもたちのために、大前提として活動していただくが、実保護者が、人とつながり、地域とのつながり、社会を知り自分をつなげ、社会を築くことができる場でもあります。社会教育を体感し、その活動のすべてが子どもたちへ、地域へとつながっているのです。

と規範意識を備えた人材の育成に努めてまいります。

このため、先般成立した「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、「心のノー」の全世帯配布をはじめとした通教育の抜本的な充実、関係者が「丸」となっていくにむかひ、責任体制の整備、いじめられている子どもを救済、いじめられている子どもは毅然として適切な指導を行うことの徹底を図ってまいります。

また、体罰禁止を徹底するため、通知の発出や「運動部活動の指導のガイドライン」の作成、体罰に係る実態把握の結果公表などの取組を行っています。

さらに、小学校英語の教科化の早期化を含めた抜本的な英語教育の充実を検討するなど、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育を充実させてまいります。

子どもたちに、学校における地域や地域における多様な学習や体験活動の機会など、これまで以上に豊かな教育環境を提供するため、土曜授業の在り方について性を検討し、その取り組みも積極的に進めてまいります。

結び、この大会において開催された取り組みが、皆さまにこれらの活動の場となり、有意義な交流の一助をなすことを期待申し上げますとともに、みえ大会開催のためにご尽力された皆さまに、心より感謝申し上げます。

「すべては子どもたちのために」

大阪府 PTA協会  
シリーズ73

## 「育いびり繋がる広げ」

大阪府 難波区から太閤さんの「天城」から、そして「天下の台所」を築き上げた歴史を持つ大阪府、新しいもを取り入れ、進歩の気配に溢れた地です。

昭和25年(1950年)に創設された我が大阪府PTA協議会は、現在が変化しても大切にして在、府(天城市を除く)7地区(豊能、三島、北河内、中河内、南河内、泉北、堺市、泉南)40市町村(約1300校)のPTA組織が加入し、会員数50万人に及ぶ、全国一の規模を誇る組織に成長しました。平成22年(1990年)には、日本PTA全国研究大会を大阪の地で開催しています。

60年以上の活動の歴史を持つ我が協議会のシンボルマークは、「PTA」という文字をデザイン化したものですが、「家庭・学校・地域社会」を温かく見守り、健康な子どもたちの成長を願う「私たちが基本姿勢を表現しています。私たちは、その姿勢を持つ、大さく次の3つ

12月の研修会では、

子どもたちを取り巻く環境も大きく変化の中で、子供たちの健康やかな成長を願う、日頃から活発な活動を展開してこられた貴団体並びに各校PTAに寄せられる期待は誠に大きいものがあります。

本日御出席の皆様方には、今後ともPTA活動のリーダーとして、また学校

教育の良き理解者として、子供たちの健全な育成のために力を添えたいと、各都道府県等が創意工夫を凝らしたPTA活動を進められるよう、改めてお願い申し上げます。

結び、日本PTA全国協議会にまします御発展と、皆様方の一層の御活躍を御祈念申し上げます、私の挨拶いたします。

生活指導委員会では、11月の研修会、「保護者のための子どもネットワーク」の活用について、各単位PTAの広報紙「コンパス」を実施し、その作成のためのノウハウを学ぶ講習会を開催し、繋がりを強めるために各地区的活動内容をPTAに掲載しています。

これからも、年3回の市町村PTA協議会会長連絡会を充実させ、会員数全国一を「活動内容全国一」にしたいと頑張っている大阪府PTA協議会です。

# 第61回日本PTA 全国研究大会みえ大会



全体会 開会式 (三重県営サンアリーナ)

## 第1分科会 組織運営

### 活発な組織運営に取り組みよう



荻野慎二氏

三重県総受化センター中ホールを会場として開催した第1分科会。全国から来られた約100名の参加者が満場の大会の中で「活発な組織運営」に取り組みようというテーマで研究討議を行いました。PTAは何のためにあるのか、近年活動が形骸化した組織の意義がわかっていくなか、PTA活動にどう関わっていくべきかを考える機会となりました。

基調講演では、小笠原探査機「はやぶさ」のプロジェクトリーダーとして活躍する環境を築く、エンターテインメントを求められた荻野慎二さんに提言をしていただきました。荻野さんは、未知の世界に挑む探査機開発の難しさや、喜び、楽しさを、体験に基づいて楽しく話していただきました。一つの事例を成し遂げるためには、たくさんの手を「チーム」へとまとめあげ、同じ「成功への思い」を共有することが大切だと学びました。午後からの実践発表は、地域内の3つの小学校が統合された津市立美杉小学校のPTAが、統合に至るまでの経緯、組織の立ち上げの取り組み、将来展望などを発表しました。山積する課題を乗り越えたいと志す方々の「子どもたちをなすための」という共通の目標に向かっての努力があったからこそ、そのこ

## 第2分科会 家庭教育

### 今、子どもたちに必要なこと、私たちがができること



井村雅代氏

「早く咲くのも遅く咲くのも、その子の個性」。その子の個性を多く観察し、子どもと一緒に自分たちも社会人として成長していくこと結論を導きました。この象徴として子どもたちとPTA有志のみならず、PTA有為の各校高らかに歌い上げました。

引き続きのパネルディスカッションでは、美杉小学校のPTA活動の様子を紹介され、それに基づき「PTAのみならず、経験、理想などが語られました。また、会場にも質問を投げかけ、あらかじめ配付した紙で参加者も意見を述べてもらうなど、意図的に組織作りについて考えました。

プログラムの空き時間に、子どもたちによるパフォーマンスも楽しんでいた。最後に、最後まで熱気あふれる発表が実現できました。皆さんのみなさんのご参加にありがとうございます。

## 第3分科会 学校教育

### 生きる力学びを支える学校力



奈須正裕氏



実践発表 (MIK 運動推進委員会)

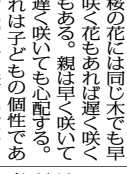
第3分科会では、松阪市立第3小学校、6年生による「龍神太鼓」の威勢のいい太鼓と、平成13年に本居宣長没後100年記念事業で誕生した鈴子会による「鈴おどり」の子どもたちによる元気いっぱい踊りを発表しました。

また、会場にも質問を投げかけ、あらかじめ配付した紙で参加者も意見を述べてもらうなど、意図的に組織作りについて考えました。

プログラムの空き時間に、子どもたちによるパフォーマンスも楽しんでいた。最後に、最後まで熱気あふれる発表が実現できました。皆さんのみなさんのご参加にありがとうございます。

## 第4分科会 広報活動

### 魅力ある広報紙でPTA活動を活性化しよう



奈須正裕氏

第4分科会では、広報活動「上げた、三重県立相可高等学校の村林新吾教育論から、光文化会主催約500名の参加者を迎えて開催しました。その中で、目録や具体的な内容、事業を発表しました。次に、松阪市立藤田中学校の吹奏楽で幕を閉じました。

また、会場にも質問を投げかけ、あらかじめ配付した紙で参加者も意見を述べてもらうなど、意図的に組織作りについて考えました。

プログラムの空き時間に、子どもたちによるパフォーマンスも楽しんでいた。最後に、最後まで熱気あふれる発表が実現できました。皆さんのみなさんのご参加にありがとうございます。

## 第5分科会 地域連携

### 地域で子育て、伝えつなぐ、さらぬく子どもの未来

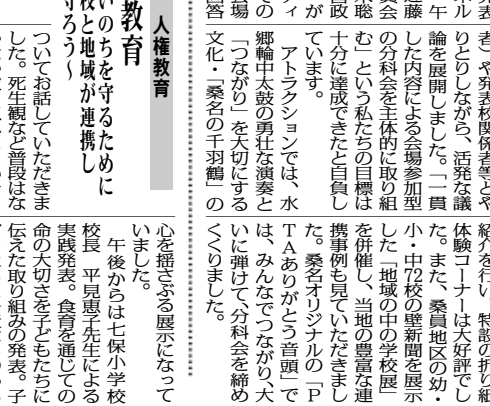


奈須正裕氏

第5分科会では、地域連携「上げた、三重県立相可高等学校の村林新吾教育論から、光文化会主催約500名の参加者を迎えて開催しました。その中で、目録や具体的な内容、事業を発表しました。次に、松阪市立藤田中学校の吹奏楽で幕を閉じました。

また、会場にも質問を投げかけ、あらかじめ配付した紙で参加者も意見を述べてもらうなど、意図的に組織作りについて考えました。

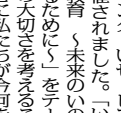
プログラムの空き時間に、子どもたちによるパフォーマンスも楽しんでいた。最後に、最後まで熱気あふれる発表が実現できました。皆さんのみなさんのご参加にありがとうございます。



実践発表

## 第6分科会 人権教育

### いのちの教育



中津子氏

第6分科会では、人権教育「上げた、三重県立相可高等学校の村林新吾教育論から、光文化会主催約500名の参加者を迎えて開催しました。その中で、目録や具体的な内容、事業を発表しました。次に、松阪市立藤田中学校の吹奏楽で幕を閉じました。

また、会場にも質問を投げかけ、あらかじめ配付した紙で参加者も意見を述べてもらうなど、意図的に組織作りについて考えました。

プログラムの空き時間に、子どもたちによるパフォーマンスも楽しんでいた。最後に、最後まで熱気あふれる発表が実現できました。皆さんのみなさんのご参加にありがとうございます。





# 「心のきずな61キャンペーン」 就学支援金の支給について

(ご報告)

口頭は、日本PTA全国協議会の諸君にご協力くださいまして、誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。皆様からのご支援のおかげで、経緯を報告いたします。

この度、東日本大震災を起因とする遺児への、就学支援金の支給に向け申請の受付を開始しました。全国各地のPTA会員や趣旨にご賛同くださいました方々から日本PTAへ寄

せられまして支援金等は、平成25年8月末まで、3億4800万1840円となっております。皆様からのご支援のおかげで、この支援にお申し上げるとともに深く感謝いたします。

今回の新たな「就学助成事業」の要項に基づき、全国各地から寄せられた募金を基に、日本PTA全国協議会が事業主体となり、児童生徒のより良い教育環境を作ることを目的

に、東日本大震災を起因とする遺児への就学支援金の支給を実施します。支給の趣旨等からは、所定の用紙に必要事項を記入し、日本PTAへ申請いただき、内容を日本PTAに設置した運営委員会にて審査し、該当する児童生徒に、中学期卒業するまでの在籍数等を一括して就学支援金を支給することとします。今後は、年度別の早期支給に向け取り組む

が支援することにより、被災地の子もまた、その教育環境を保全・維持し、健全な育成に寄与することを目的とします。今後は、平成25年度役員が協議し、教育助成支援事業として、平成28年度まで活動を行う予定です。

「心のきずな61キャンペーン」は、東日本大震災を、そして被災地への思いを忘れないことを確認しながら展開されてきました。日本PTAは、今後子どもたちの健やかな成長を願い、一人でも多くの子どもたちに支援を届けたく考え、ありますので、会員皆さまは、ご理解と協力くださいますようお願いいたします。

## 活力あふれる学校づくりを目指して

はじめに

大分市立東陽中学校は、大分市の東部に位置する高田川漆別保地区を校区とし、昭和63年に大規模校であった大東中学校から分離独立して、本年既に25年目を迎えた大分市内の公立中学校でもっとも若い学校です。

この地域の住民は団結力が強く、様々な地域の行事等に学校と協力して取り組んでいこうとする機運に満ち溢れています。また、大分県で最長の川「天野川」は、この地域を流れ、昔から洪水という計り知れないエネルギーを出し続けてきました。そこで、先人は、いかに洪水から身を守るか知恵を出し合い、「輪中(わちゅう)」という家の敷地を高くする方法を

編み出すとともに、肥沃な土地を頂き、豊饒の発展という恵にも与り、独特の文化を誇っています。そういう先人の自然との調いと融合の

な登校、充実した学校づくりへのサポート。PTA会員の研修活動等に積極的に取り組んでいきます。役員組織としては、執行部・学年部・研修部・広報部・地区部・給食部・父親部からなり、毎月

の自然との調いと融合の存在です。なお、就学助成を目的とした事業は今回をもち終わります。「教育支援基金」の設立について

この基金は、東日本大震災の被災地の子もまた、忘れられることなく、今後の支援の手を差し伸べるための思いを込めて創設した。平成25年度から29年3月まで、基金の目標額を1年間2500万円とします。

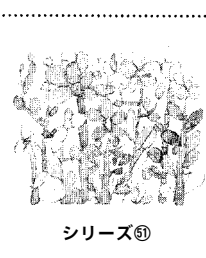
基金の目的は、自然災害等の発生により、大きな被害を受けた被災地の子もまた、各地方協議会が実施する教育に関する支援事業を日本PTA

動特色として、「一人一役」があり、全会員が活動の何れかに参加し、学校の様々な問題に関わります。この実践による、様々な活動においてPTA会員の出席率もよ、全員参加のPTA活動が展開できていると

感しています。県PTA連研究指定の取組

昨年度、本校では、大分県PTA連会指定研究校として、研究発表会を開催いたしました。当日は、開会行事の後、例年実施している「ふれあいPTA(ふれあい講座)」を企画し、午後からは、全体発表を行いました。今年度は、PTA実

## Column 学校の窓から



各分会は必要に応じて、総務・常任委員会は学期に1回開いて、PTA活動の充実を目指して運営しております。父親部は、愛校作業・PTAハ

地域の伝統や美術工芸、食文化、科学、進路学習など多岐にわたる12ほどの講座を用意し、生徒の興味、関心に基づいた体

験的学習を実施する。地域に学ぶ活動です。PTA会員の研修活動等に積極的に取り組んでいきます。役員組織としては、執行部・学年部・研修部・広報部・地区部・給食部・父親部からなり、毎月

の自然との調いと融合の存在です。なお、就学助成を目的とした事業は今回をもち終わります。「教育支援基金」の設立について

この基金は、東日本大震災の被災地の子もまた、忘れられることなく、今後の支援の手を差し伸べるための思いを込めて創設した。平成25年度から29年3月まで、基金の目標額を1年間2500万円とします。

基金の目的は、自然災害等の発生により、大きな被害を受けた被災地の子もまた、各地方協議会が実施する教育に関する支援事業を日本PTA

動特色として、「一人一役」があり、全会員が活動の何れかに参加し、学校の様々な問題に関わります。この実践による、様々な活動においてPTA会員の出席率もよ、全員参加のPTA活動が展開できていると

## 第35回全国小・中学校PTA広報紙コンクール受賞校決定

賞	小学校PTAの部	中学校PTAの部
文部科学大臣賞	＜やまた＞横浜市立山田小学校PTA	＜向陽だより＞東京都杉並区立向陽中学校PTA
日本PTA全国協議会会長賞	＜トライアングル＞富山県南砺市立福野小学校父母と教師の会	＜Plain＞北海道帯広市立帯広第一中学校PTA
	＜カリヨンのひびき＞鳥取県鳥取市立若葉台小学校委員会	＜葛城＞千葉県立葛城中学校PTA
日本教育新聞社社長賞	＜なないろ＞沖縄県豊見城市立豊崎幼稚園・豊崎小学校PTCA	＜おおとり＞川崎市立長沢中学校PTA
	＜まつばら＞山形県酒田市立松原小学校PTA	＜かしわ＞仙台市立富沢中学校父母教師会
教育家庭新聞社社長賞	＜津の峯＞宮崎県日南市立油津小学校PTA	＜となみ野＞富山県砺波市立出町中学校PTA
	＜ひろき＞鹿児島県鹿児島市立広木小学校PTA	＜かんな＞鹿児島県鹿屋市立鹿屋中学校PTA
企画賞	＜さんのまる＞茨城県水戸市立三の丸小学校PTA	＜清流＞鳥根県安来市立第一中学校PTA
写真賞	＜すずな＞鹿児島県鹿児島市立紫原小学校PTA	＜紫原＞鹿児島県鹿児島市立紫原中学校PTA
レイアウト賞	＜長良＞岐阜県岐阜市立長良小学校PTA	＜瑞穂＞岐阜県瑞穂市立徳積中学校PTA
	＜よるこび＞岐阜県美濃加茂市立古井小学校PTA	＜野田中PTA＞大阪市立野田中学校PTA
佳作	＜なかしまね＞東京都足立区立区立中島根小学校PTA	＜未来＞沖縄県豊見城市立伊良波中学校PTA
	＜こんにちは＞北海道帯広市立啓北小学校PTA	＜萌木＞茨城県那珂市立第四中学校PTA
	＜蘭梅＞岩手県一関市立山目小学校PTA	＜丘の風＞千葉県松戸市立第一中学校PTA
	＜ひがし＞栃木県宇都宮市立横川小学校PTA	＜みなみPTA＞神奈川県秦野市立南中学校PTA
	＜Beans＞岐阜県岐阜市立則武小学校PTA	＜山なみ＞長野県長野市立広徳中学校PTA
	＜千二小PTAだより＞大阪府吹田市立千里第二小学校PTA	＜丸蹄中PTAだより＞福井県坂井市立丸蹄中学校PTA
	＜ほおのき＞神戸市立高津橋小学校PTA	＜こうほう国府＞山口県防府市立国府中学校PTA
	＜わだっこ＞山口県周南市立和田小学校PTA	＜ひよし＞愛媛県今治市立日吉中学校PTA
	＜ゆずりは＞宮崎県都城立高城小学校PTA	＜学院院＞福岡県太宰府市立学院院中学校PTA
	＜財風＞宮崎県日向市立財光寺小学校PTA	＜ほのぼの＞佐賀県藤津郡太良町立多良中学校PTA

**優良広報紙集発売中**

読まれる広報紙を目指して、その審査総評や、校PTA広報紙コンクールで表彰されたPTA広報紙の優秀作品を紹介した広報紙集が完成しました。

小・中学校各1校、計12校の受賞作品が掲載されています。ぜひ、この広報紙集を、魅力ある紙面役立てに役立てたいと思います。

購入方法  
お届ける住所・氏名・希望部数を明記して、ハガキまたはFAXで下記へお申込みください。  
定価 1,800円 送料 290円(いずれも税込み)  
(お支払いは、同封の郵便振替用紙でお願いします。)  
公益社団法人 日本PTA全国協議会  
〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-38  
TEL.03-5545-7151 FAX03-5545-7152

8月2日、日本PTA全国協議会において第35回全国小・中学校PTA広報紙コンクールの最終審査が行われ、入賞作品が決定しました。審査対象は、平成24年度中に年一回以上発行された広報紙で、今年度の応募総数は5865校(小学校3096校、中学校1781校)。各地方協議会での第1次審査の後、日本PTA全国協議会における第2次、第3次審査、そして最終審査を経て、PTA広報紙の持つ「目的・使命・記事のレイアウト・見出し・文章などの評価が総合的に優れている」小・中学校各21校の計12校の広報紙作品が受賞の栄誉に輝いた。

# おめでとう 第35回 少年の主張全国大会

内閣総理大臣賞

忘れないために

宮城県 気仙沼市立  
小原木中学校3年 梶川裕登



学校のある地区に取り付けました。この地区はほとんど海抜20M以上で、被害の少なかった場所です。次にどりの大沢地区への取り付け。こ

## 文部科学大臣賞 マイ・ファミリィ

大分県 杵築市立  
杵築中学校3年 大柳涼子



今現在ですと育ててもらっています。その里親のもとには、私以外にも5人の里親がいて、一緒に生活しています。皆、里親のもとに来た理由がそれぞれです。

一つ目は「虐待」。親が子どもに暴力などを振るっている場合です。二つ目は「ネグレクト」。親が育児を放棄し

たことにより、施設や里親のもとに預けられる場合です。三つ目は「親の非常事態」。例えば、親が病気になり、育児ができない時、親の体調が回復するまで他者に一時養育してもらう場合です。

てしまうもの。悲しみの中にいつまでもはいけない。切り替えて前に進まなくてはならない。辛いけど、震災があったことを、僕たちは忘れず、伝えていかなくてはならないと思うのです。



国立青少年教育振興機構  
理事長賞  
「十五歳の決意」  
兵庫県赤穂市立有年中学校  
3年 松本優香さん



審査委員長  
審査委員長賞  
「伝統を受け継ぐ」  
愛知県豊田市中立石野中学校  
3年 安藤明日香さん

確認された場合、虐待の悪化を防ぐため、早急に親と子を離すという予防策がとられます。しかし、保護した子どもと親との家族関係を修復することは難しいです。

私が小学生の時に、1つ歳下の女の子が、我が家に来るようになりました。その子は、親からの虐待を受け、体にも心にも傷を負っていました。そのため、相手から自分を否定されることを極度に恐れ、「自分はこの世に必要とされていない」という

必要とされていない」という言葉が口癖のようになっていました。自分の求めが通らないと、手当たり次第に物を投げ、暴言を吐き、泣き、叫びました。そして、時には包丁を取り出し、「殺して」と、泣きながら訴えることもありました。しかし、落ち着くといつも、「ごめんささい。何度も何度も謝っています。私、これが幼い頃から虐待を受け続けた深い心の傷の表れなのだ」と納得しました。しかし、自分の行動を責める妹が不憫で、かわいそうでなりませんでした。それでも、この家に必要な存在でいたくて、自分なりに妹はがんばっていたと思います。

親が子どもを必要とするように、子どもを必要とします。それは、当たり前のことだと思えます。子は親を選べません。育児を放棄したり、暴力を振るったりするならば、なぜ、産んだのでしょうか。たしかに、子どもを虐待してしまい、辛い思いをしている親もいると思います。

しかし、虐待のニュースが報道される度に、憤りの気持ちを抑えきれません。抵抗もできない暴力を受け続けることが、子どもにとつてどんなに辛いことか。あなたには想像できませんか。

里子たちの中には、親と面会できる子と、できない子どもがいます。私は後者の方で、やはり、親と面会できる子を羨ましく思っただけではありません。そして、私を手放した理由を親に聞きたくなる時も、私が生まれるまでのルーツを知りたい時もあります。しかし、私を産んでくれたことには感謝しています。今の里親に出会い、弟となった里子たちと出会い、そして、周りのたくさんの人たちに支えられ、私はこうして生きています。このこと、とても感謝しています。里親とは、けんかもするし、何の気兼ねもなく暮らしています。本当の家族のように、里親が接してくれることが、とても嬉しいです。お父さん、お母さん、私は今、とても幸せです。

現在、世界中で、孤児や児童養護施設に預けられる子どもが増え続けています。この事実を、一人でも多くの人に理解してもらい、里子、または養子として、子どもを受け入れてくれる人が増えることが私の願いです。いえ、それ以前に、孤児や児童養護施設に預けられる子ども、また虐待を受ける子どもたちが、一人でも減ることを祈っています。そして、そのために、私には何かできるのか。そのことを常に考え、実践していきたいと思っています。

## 「あるPTA会長の日記から」

小学校のPTA会長を仰せつかりまして4年の歳月が流れました。拝命した当初、これは恐ろしく皆さんお考えになることかと思いましたが「PTAって何のためにあるの？」「こんな問いを抱き、ある方に尋ねると「それは子どものためだよ」と言ってくれた人がいました。しかしその様な言葉に正直「では何をすることが子どものためなの？」という違和感にも似た疑問が日増しに強くなつていきま

たとある発達心理学者は「親だけが子どもを育てている」とも育てているのではなく、子どもも親をも育てている」と言っています。私たちは子どもたちとの関わりを考えると、親が子どもに何かを伝える、あるいは教えるといったことを考えがちです。しかし、実は子どもとの関わりを通して、私たちが自身が子どもたちから学んでいることも数多くあるのではないのでしょうか。私たちが子どもを育てると共に、「自分自身も子どもたちによって支えられており、その存在に感謝しながら一

緒に育っていく」という視点に、あらためて気づくことが大切であると思います。私は小学生の子どもたちとの関わりの中でその純粋無垢な姿に大人になって忘れかけていた「何か」を思い出させてくれたりと感じてなりません。子どもたちを中心とした先生方や私たち保護者。そして地域の方々と連携を含め共に学ぶということが「共に学び共に成長する」ことが子どもたちの将来のため、すなわちこの国の未来のためになるのだと最近、感じるようになりました。

## 「共に学び共に成長する」子どもを中心に

先生・保護者・地域の連携

活動は何かと自分の時間の制約やちよつとした経済的な負担等、日常生活から失うものも正直あるのかもしれない。しかし目に映るものは失っても、私はこのPTAというお世話活動を通して、決してお金では買えない「目に見えない何かを得た」と思っています。幸いにもこのことに気がつくことができ、冒頭の「PTAは何のため」という問いに少しだけ「一筋の光が微かに差し込んで来たように思います。

頭張つてね！私のPTA役員活動のスタートはなんと!! 他人任せのくじ引き(笑)でした。4年前の、ちょうど今頃の頃のことです。あれから時が流れ今はこうして日本PTA広報委員をさせて頂いていただいています。くじ引きをめぐってくださった友人は「どこまで行くの？」と笑って聞きますが、「委員会に向かう電車の中で、流れる景色を見ながら「終点はどこかしら？」と考える私です。



本役員決めの会議に欠席をした私は、軽い気持ちで「くじ引きになったら任せるね!」と友人にお願いして仕事に向かいました。昼休みに携帯をチェックすると数件の着信とメール! すべて会議に出ている友人たちからでした。「なにこ?」と思いメールを開くと「おめでとう(笑)の文字。大丈夫! あなたならできる!!

皆さんは、以前の気仙沼の町並みを思い出せますか。僕は、はつきりと思いつくことができません。今の景色を以前からあった景色として錯覚してしまっているのです。それに気付いたのは、小原木中学校での活動からでした。小原木中学校では、海抜表示プロジェクトを行っています。その場所が、海抜何Mなのかを調べ、電柱など見えるところに、このような表示板を取り付けていきます。海抜を意識し、どの高さまで逃げればよいのか、参考にしてもらおうと、考えたプロジェクトです。調べてみると、小原木中学校は海抜70M。気仙沼高校は40・5M。市立病院は13・8M。船着き場は0・8Mでした。僕が住む只地域地区の津波の最大値は27・6M。海抜5・2Mしかなかった僕は、残念ながら、もうありません。僕たちは、表示板を中